

シンガポールにおける公共交通のあり方

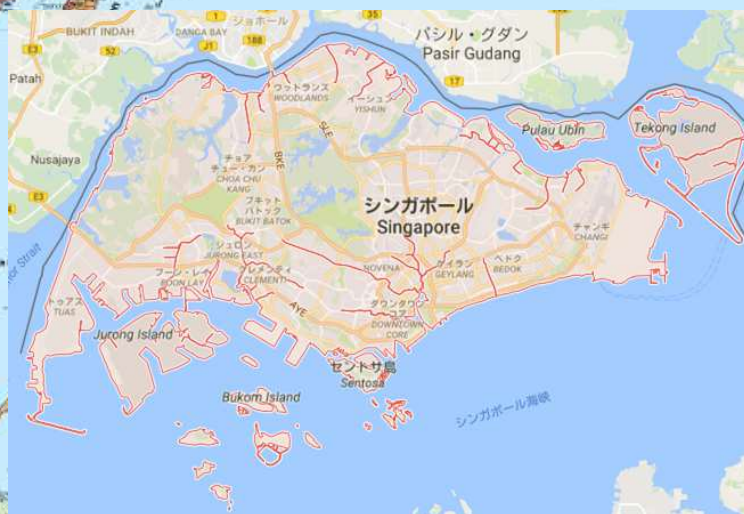
流通経済大学 板谷 和也



報告趣旨

- 日本の公共交通における課題の把握や改善方針の検討には、海外研究が有効
- そのため各所で様々な研究が行われ報告されている
- 本報告ではシンガポールの現況を、公共交通を中心に紹介

シンガポールの地理的特徴



マレー半島の先にあるシンガポール島全域

赤道直下、都市国家

面積: 719.2km²、人口: 585万人、人口密度: 8400人/km²

(参考) 東京都区部: 627.53km²、979万人、15000人/km²

東京都区部と同じくらいの広さで人口は半分くらいのイメージ



System Map

シンガポールの交通：鉄道

路線数: 6、停留所: 134
利用者数: 340万人/日



2024/3/17

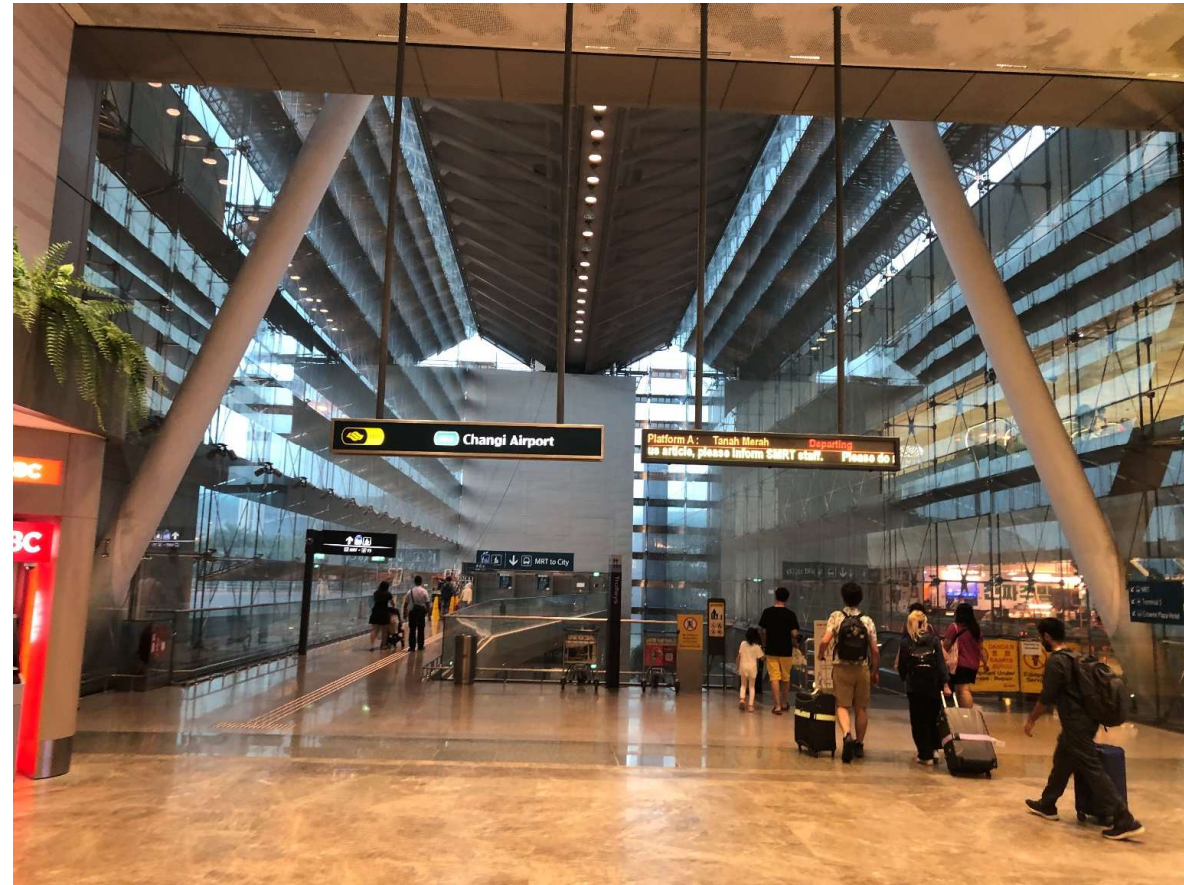
MRT駅



MRT駅つづき



チャンギ国際空港駅



シンガポールの交通:路線バス

10 Tampines Int ⇄ Kent Ridge Ter



Man
A Twr /
p Costa
g Bahru
g
East



空港における路線バス



シンガポールの交通：自動車



ERP: ロードプライシング ゲートを通過する際に車載器から支払い、時間帯により価格が変化

- シンガポールは自動車の保有・走行コストが高い
- 車両購入権 (COE) : 200万円～300万円ほど
- 追加登録料 (ARF) : 200万円～300万円ほど
- 物品税・消費税: 価格の30%ほど
- 車両登録料: 200万円ほど
- 車両価格を含めた合計: 1000万円ほど

チャンギ国際空港の案内



自動車とタクシーとライドシェア

• タクシー

- タクシー乗り場における客待ち、流し営業、配車のいずれも可能
- SSOL (Street-Hail Service Operator Licence) 免許
- 4社14000台ほど

• ライドシェア

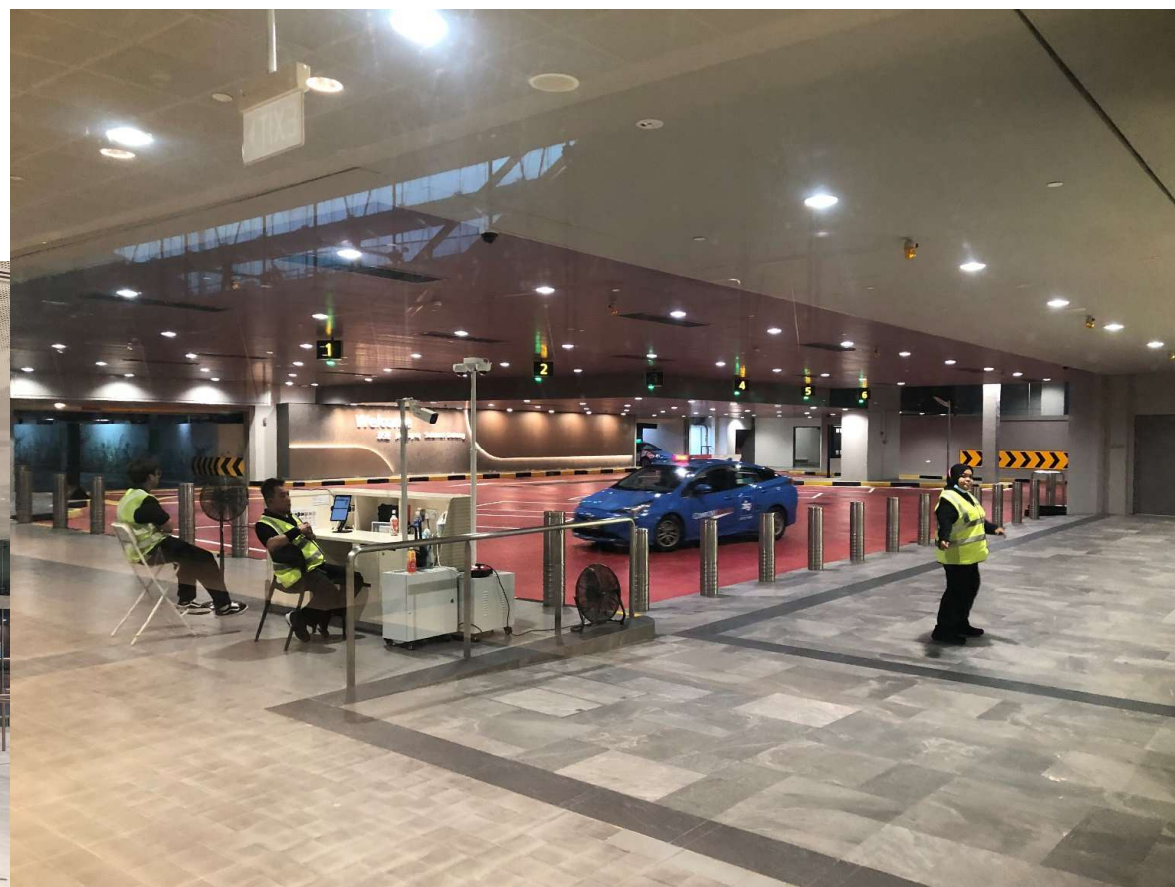
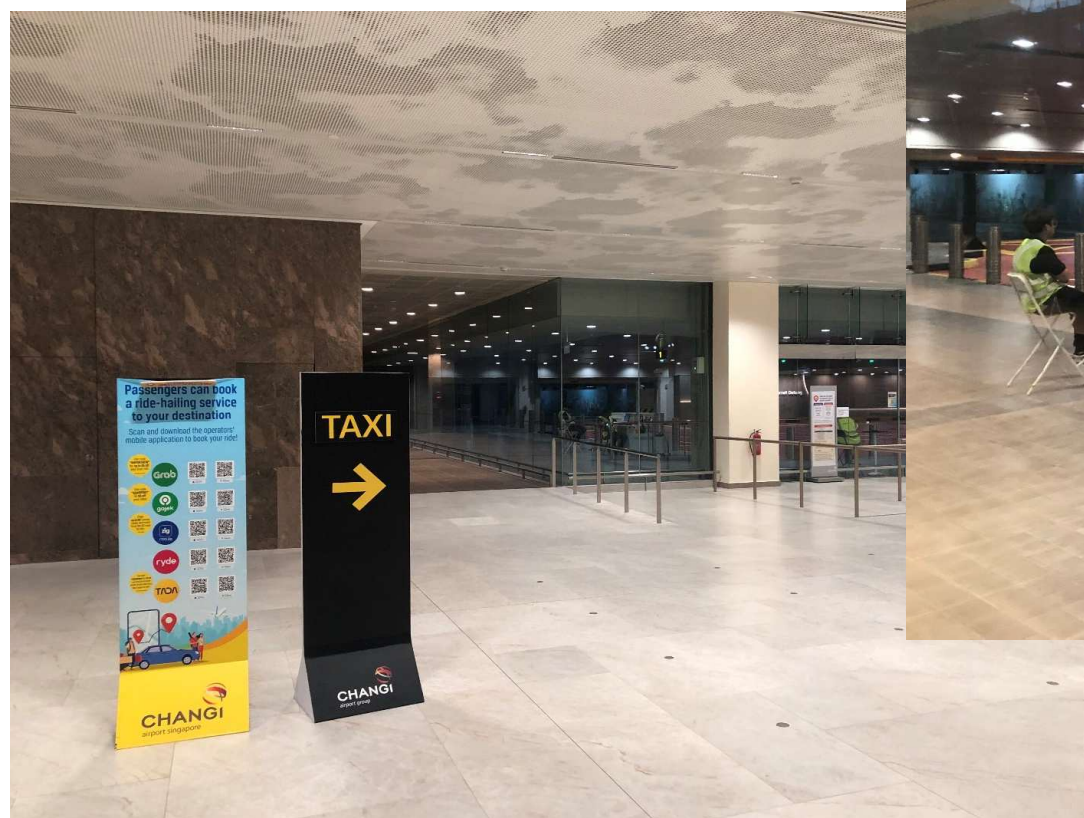
- 配車サービスのみ
- RSOL (Ride-hail Service Operator Licence) 免許
- 4社45000台ほど



シンガポールのタクシー

出典:シンガポール駐在員ブログ

空港タクシー乗り場



ライドシェアの空港での扱い



まとめ

日本、東京における交通の課題、改善の方針が見えてきたのではないか

- シンガポールの公共交通は多くの選択肢の中から選択可能
- 大量交通機関は安くて便利
- クレジットカード、ICカード、デビットカードで乗車可(紙のきっぷなし)、スマホで支払管理
- タクシーとライドシェアも選択可能
- 時刻表(リアルタイム状況)やマップ、路線図も全てスマホから閲覧可能
- 自動車関連費用はきわめて高い
- 日本と比べると
- (ライドシェアを含む)選択肢が多い
- (外国人を含む)誰でも利用しやすい
- (スマホだけでなく)情報収集がしやすい
- 清潔で頻発、路線網充実(これは日本・東京も同じか)
- 自動車は圧倒的に日本が使いやすい